

次世代携帯端末の教育における活用

岐阜県本巣市立糸貫中学校（前糸貫町立糸貫中学校）
上水流 信秀（かみずる のぶひで）

1. 実践のねらい

本企画では、次世代携帯端末(FOMA)の特質である『高速通信機能』と『TV 電話機能』を学校用グループウェア（ライズキャンパス）と連携させ、『野外活動などフィールドワークの学習端末』として機能させていくことをねらった。特に、入力端末としての機能を重視し、野外での観察・調査・記録ツールとして活用していく。ここで得られた情報をシームレスにグループウェア上で管理・蓄積し、再利用可能にしていくことを目指している。こうすることによって、単に情報伝達手段に過ぎなかった携帯端末が、教育機器としての機能を併せ持つことができるものとする。

2. 実践の概要

(ア) 「修学旅行リアルタイムレポート in 北海道！」の実践

各グループに1台のFOMAを持ち、「北海道修学旅行」のレポートを現地から生徒自身の手によって行った。FOMAから送信された動画・静止画のデータは、リアルタイムに学校のグループウェアサーバに蓄積される。3泊4日の期間中、送信コンテンツ約700タイトル、地域の保護者などからのアクセスは3000件を上回った。

(イ) 「夏休み部活動現地レポート！」の実践

夏季休業中の中体連の大会へ、各部活動1台のFOMAを持ち、試合の結果を校内グループウェアに送信した。インターネットを通じて地域・家庭にも公開され、休業中にもかかわらず生徒・保護者の多くが「活動と感動」を共有することができた。

(ウ) 総合的な学習「福祉MAPづくり」の実践

3年生総合的な学習のテーマ「共生」の学習に、フィールドワーク端末として、FOMAを利用した。学校周辺の公共施設や歩道などを複数のグループに分かれて調査していった。プロジェクトリーダーの生徒たちは、学校コンピュータールームに本部を置き、FOMAのTV電話機能や、多地点TV電話会議機能（NTTドコモ・ビジュアルネット）を利用して校外の活動グループに指示を送った。校外のグループからは、グループウェアを通して各地点の様子や問題点などがデータとして送られてきた。グループウェアのデータリンク機能と、FOMAの動画コミュニケーション機能を有効に活用し、離れた地点で個々ばらばらに活動しながらも、情報を共有しながら効率的に活動を進めることができた。

(エ) 地域と学校を結ぶ！「通話エリアが学習エリア！」



生徒会活動では、「1日入学を成功させよう」というスローガンのもと、小学生の意見を生徒会に取り入れようとFOMAによるTV電話会議を行った。校下の3小学校に、担当の生徒がFOMAを持って訪問し、各小学校の児童会のメンバーに携帯TV電話で会議に参加してもらった。何の設定も準備もいらない簡単なシステムで、交流活動を行うことができた。

家庭科ではFOMAを使い、幼稚園からの生中継を行い幼児に対する学習を進めていった。訪問では見られない「本物」の姿を、幼稚園の先生がFOMAを使ってライブで送信していただいた。

3. 現状における成果と今後の方向性

次世代携帯の持つ高い機能は、それをデータ受信端末として扱うよりむしろ「入力端末」として利用の方が極めて有用であることが実証された。今後は、グループウェアとの連携をさらに高めながら「個の学習サポートツール」としての可能性を探っていきたいと考えている。